

# 大人が絵本を 第13回 小児歯科医院



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*

小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

\* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

## 歯科医院待合室でのスマホとゲーム機

歯科医院の待合室で、司書として今、気になっていることがあります。それは小学校中学年から高学年の子どもたちが、ゲーム機を片手に医院に入ってきてソファにどかっと座るや否やゲームを始めることです。人がたくさん集う場所、そして親子で並んで共有している待ち時間を、子どもはゲーム、保護者はスマホに没頭しているのです。これは今更の現象ではないのですが、とりわけ医療現場では、せめて人の集う場所では人間同士の触れ合いや会話、もっと言えば笑い合うことを大事にしてほしいと願います。

そこで、小児歯科医院の司書としてできること、それは絵本の「読みあい」\*1です。私たちの「こどもの歯科」では、院内おはなし会だけでなく、待合室や診療室内で司書の私が子どもたちと絵本の読みあいを行っています。子どもたち、または親子と読みあいをさせていただくことで、人と人とのつながりを持って温かな時間を共有させてもらっています。

## 待合室で絵本を読みあうということとは？

こんなことがありました。待合室で、お母様はスマホ、小学6年生の男の子はゲームをして診療待ちの時間を過ごしている親子がいました。司書が何気なく男の子に近付き、「ゲーム好きなんだあ？」と

\*1 どちらか一方からもう一方への読み聞かせる行為よりも、互いにもがたり世界の不思議に立ち合う対等な関係づくりを考えて村中李衣氏が提唱した表現。読み手と聞き手と、そして両者によってできる空間の中で、絵本の表面にあらわれていない無言のことは受けとめあい、保ちあうということ<sup>4)</sup>。

ゲームの話でコミュニケーションを取り始め、「今日はせっかくだから、おもしろい絵本を一冊だけ、一緒に読んでみないかな？」などとナンパのような声かけをすると、男児はさすがにちょっと戸惑い気味の表情で、ゲーム機をしっかり握っています。待合室での読みあいの声かけは無理強いしないことを鉄則としているので、引こうかなと思ったところにお母様の助け船「せっかくだから、読んでもらったら？」のひと押しで、ゲームを閉じてくれ、読みあいが始まりました。この男児との読みあいに選んだ絵本は、『ぼくのお風呂』です。



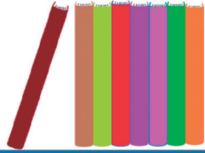
『ぼくのお風呂』  
鈴木のりたけ 作  
(PHP 研究所)



最初のページは、どこの家庭にでもある普通のお風呂に向かって、はだかんぼで考え込む男の子の絵から始まります。ページをめくると、縦長〜いお風呂におしりをぶかりと浮かべて泳いでいる男の子の絵に変わります。その構図だけで、始めはしぶしぶだった男の子が指を差して、にやつき顔に変わるのです。

やがて、見開きページいっぱい、シーソー風呂やチョコ風呂などおもしろ風呂が28種詰め込まれたページになると、「おもしろ〜い！」とつぶやきながら、お風呂観察に興じています。そのうちに、お風呂の栓が盗まれ、もじゃもじゃ頭の犯人を捜す展

# 手にするときは！ で、絵本を読みあう



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



開になると、目を輝かせ画面を一生懸命観察し、探し当てるのです。そして、読み終わると同時に「あー、おもしろかったー！」と生き生きとした満面の笑顔を見せてくれました。

読みあいを始めると、スマホを止めて一緒に読みあったお母様も終始笑って、読み終わると絵本のタイトルや著者名をメモされました。すかさず、同シリーズである『ぼくのトイレ』、『ぼくのふとん』、同じ著者の『おしりをしりたい』をご紹介します。

この日、この親子が予定していた待合室での過ごし方では決して得られなかった親子の感情共有とぬくもり、そしてこの短い時間をきっかけとして次につながる親子の時間への発展を見届けさせていただきました。



## 小児歯科医院でのプレパレーション

院内での絵本の読みあいは、ビブリオキッズ開館1年後に、プレパレーション(心理的準備)ツールとしての活用を意識して始めました。小児科で一般的となったプレパレーションとは、「病院で子どもが“きっと直面するだろう”と思われる医療行為によって引き起こされるさまざまな心理的混乱に対し、説明や配慮を受けることにより、その悪影響が最小限になるように工夫し、その子なりに乗り越えていけるように子どもの対処能力を引き出すような関わりをすること」<sup>1)</sup>です。共著者の濱野は、2000年の第4回全国医療保育研究会(後の日本医療保育学会)において、「スウェーデン・ウメオ市地域病院におけるプレイセラピーキット Prepare-less scared を翻訳して」と題して、スウェーデンで用いられたプレパレーションキットについて報告し、その実践の

普及に務めました。

小児歯科医院では3通りの役割に分けられます。1つ目は診療・治療待ちという、子どもにとって恐怖・不安でしかない待合室での時間に絵本を読むこと、読みあうことで心の準備ができ、リラックスにつながるという役割です。

2つ目に、検査や処置などを行う前に、絵本を使って子どもたちに事前にわかりやすく説明することで、治療について検査や治療に向き合う勇気を引き出す役割があります<sup>2)</sup>。

3つ目は診療・治療中にベッドサイドで読みあうことで、極限の緊張感の中で恐怖と闘い、治療への嫌悪感にだけ向けられている意識を逸らせ、緊張度を和らげる役割です。

絵本は子どもたちにとって身近で、楽しいものです。赤ちゃんに与える「絵本の力」、大人に及ぼす「絵本の力」とはまた違った力を、医療現場でも絵本は発揮してくれるのです。



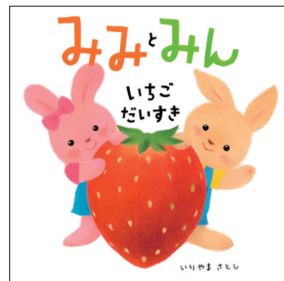
## プレパレーションツールとしての絵本

その日、歯科医師より、久しぶりの治療で緊張度の高い女の子がいるからと、治療前の読みあいを依頼されました。初めて会ったAちゃん(6歳)の顔は確かに強ばっていました。1冊目にしたのは、女の子が大好きなウサギとイチゴのかわいいお話『みみとみんないちごだいすき』でした。

読みあっているとAちゃんは、お話を聞きながら絵を見ているのですが、診療室から泣き声が聞こえると、パッと顔をあげ、泣いている診療台をじっと観察しています。その間、ちょっとだけお話を中断して、でもすぐに続きを読み始めます。すると、



『みみとみん いちごだいすき』  
いりやまさとし 作  
(学研教育出版)



『てんとうむしのはじめのレストラン』  
さいとうしのぶ 作  
(アリス館)



Aちゃんも絵本に顔を移すのですが、また泣き声が聞こえると、顔と気持ちはそちらへ向かいます。1冊目はその繰り返しでした。

2冊目は、ちょっとしたしかけ絵本『ぎゅうぎゅうでんしゃ』です。お祭り行きの満員電車で大きな動物が1頭、また1頭と乗り込んでいくのですが、首の長いキリンや大きなライオンが小さくなって乗り込む姿に楽しみがあります。ライオンが周りの迷惑にならないようにタテガミをゴムで結んでいるような、小さな気遣いを発見するのも楽しい絵本です。

そんな発見をして会話しながら読んだ2冊目は、絵本に集中している時間の方が長くなりました。診療室を気にしたのは、1~2回くらいだったでしょうか。



『ぎゅうぎゅうでんしゃ』  
薫くみこ 作  
かとうようこ 絵  
(ひさかたチャイルド)



3冊目の、お料理を作って家の中でピクニックをする女の子が大好きな絵本『おうちピクニック』では、すっかりお話の世界に浸っていました。絵本を通して、初対面の私に心を許してくれたということになるのでしょうか。

4冊目のさがしっこ絵本『てんとうむしのはじめのレストラン』では、もの探しに夢中で、読み終わると「もう一回」のリクエストがありました。このときは、緊張感や不安感はすっかり軽減し、5冊目の読み始めに、診療の呼び入れがありました。絵本に後ろ髪を引かれながら、「待っててね」と言って診療室へ行くではありませんか。感激！感激！

読みあいをする前は警戒心が強く、歯科医とコミュニケーションを取ろうとしなかったのですが、読みあい後の呼び入れでは、自らすつと診療台に上がったそうです。そして、司書と読みあった絵本について歯科医や歯科衛生士と会話をしながら、治療にすんなり入れたとのことでした。読みあい後、治療に対する警戒心が全くなっていたわけではないけれど、緊張感は低くなり、治療による影響を及ぼしていたとの報告を受けました。

ビブリオキッズの選書者の一人で、「読みあい」という造語を提唱した村中李衣氏は、「読みあいを続けることにより、読みあいの“場”の中でのリラクゼーションをはかる。」<sup>3)</sup>という効果をあげています。Aちゃんは、久しぶりの歯科医院、歯科治療で、緊張して訪れたところに、鳴り響く診療器具の音や泣き声を聞いて、不安がさらに高まっていたのではないのでしょうか。院内に入ってから精神的ストレスが高まる中、他の子どもたちの診療光景を見ながら自分の順番を待つことは、ストレスの増幅なのです。このとき、司書がAちゃんと“場”を共有してい



診察室での読みあい

く中で、Aちゃんはリラクゼーション感を得ることができ、緊張感を和らげることが可能となりました。

## 場づくりとしての絵本の読みあい

村中李衣氏は、「読書療法という、心理療法の一方は、『絵本の読みあい』<sup>3)</sup>と言います。「現在そこに在るその人間とどんな自由な場をつくり得るか、場の中で互いにどこまで育ち合えるか、互いにどこまで場を育てあえるかが重要」<sup>3)</sup>だと明言しています。こどもの歯科、ビブリオキッズでは、村中氏の考えに習い、訪れる患者様、会員様との場の中での育ち合い、育て合いを大切にしています。

お子様が歯科医院へ行くということは、大きな不安や恐怖、ストレスと戦っていることでしょう。そのストレスを緩和するアプローチは歯科医師や歯科衛生士、受付保育士の役割ですが、歯科医院に所属する司書の役割は、子どもたちにとって質の違うリラクゼーションになるのです。歯科医院で患児の気持ちを支えるための支援として、司書が積極的に介

入することで、子どもたちや親子と育ち合える場づくりを大切にできるのです。



最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

## 文献

- 1) 蛭名美智子, 他: プレパレーションの実践に向けて—医療を受ける子どもへのかかわり方, 厚生労働科学研究補助金 子ども家庭総合事業 小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究班 平成14・15年度報告書別冊, 第4班「子どもと親へのプレパレーションの実践普及」研究班, p.2, 2012
- 2) 橋本勉生: プレパレーションで「患者」となる子どもたち, 医療安全, no.10, p.47, 1985
- 3) 村中李衣: 読書療法から読みあいへ—場としての絵本, 教育出版, 東京, 1998, pp.185-192
- 4) 村中李衣: 絵本の読みあいからみえてくるもの, ぽどう社, 東京, 2005, pp.42-51

## 絵本

- 1) 鈴木のりたけ: ぼくのおふろ, PHP研究所, 東京, 2010
- 2) 鈴木のりたけ: ぼくのトイレ, PHP研究所, 東京, 2011
- 3) 鈴木のりたけ: ぼくのふとん, PHP研究所, 東京, 2013
- 4) 鈴木のりたけ: おしりをしりたい, 小学館, 東京, 2012
- 5) いりやまさとし: みみとみん いちごだいすき, 学研教育出版, 2010
- 6) 薫くみこ作, かとうようこ絵: ぎゅうぎゅうでんしゃ, ひさかたチャイルド, 2010
- 7) きむらゆういち作, とりごえまり絵: おうちピクニック, 世界文化社, 2010
- 8) さいとうしのぶ: てんとうむしのはじめてのレストラン, アリス館, 2011

